

はじめに、お読みください(StarTno_00)

1. はじめに

StarTno_00 は、RTC の入門用に作成しました。RTC の使い方の基本練習した後は、RTC の作り方について反復練習します。操作を繰り返すことで RTC の作成手順が身につくようにしました。また、RTno を使い、Stduino(Arduino 互換ボード)に接続したサーボモータを動かします。

2. StarTno_00

StarTno_00 は、Windows7_VisualStudio2013 と Windoww10_VisualStuduio2015 の 2 つの環境の説明書を準備しています。環境にあわせてご利用ください。Windows7_VisualStudio2015 の場合は 2 つの資料を併用してください。説明書は 3 部構成です。①RTM の使い方・作り方 1, ②RTM の作り方 2, ③RTno の使い方・スケッチの作り方となっています。①, ②はノート PC のみを使用します。③では、Stduino を使用します。Arduino でも代用可能です。

説明書	内容	備考
StarTino_00 説明書 01	RTM の使い方・作り方 1	xNComp
StarTino_00 説明書 02	RTM の作り方 2	CoutComp, CinComp, KeyinComp
StarTino_00 説明書 03	RTno の使い方・スケッチの作り方	RTnoProxy.conf で設定が必要

① RTM の使い方・作り方 1

RTM の使い方では、コンソールイン、コンソールアウトを使い、動作確認を行います。コネクタのつなぎ方、アクティベートの方法について確認します。

RTM の作り方 1 では、コンソールインとコンソールアウトの間に入れて、入力された値の 2 倍、10 倍、100 倍を出力する RTC を作成します。

② RTM の作り方 2

RTM の作り方 2 では、Cin, Cout, Keyin の 3 つの RTC を作成します。RTC ビルダーでコンポーネントを構築し、CMake で必要なファイルを作り、VsualC++でコードを書いてビルドします。

③ RTno の使い方・スケッチの作り方

菅氏が開発した RT コンポーネント・Arduino 間の通信を簡単化する RTC の使い方の練習を行います。これを使うことで、Arduino, Stduino を簡単に利用することができます。

①RTM の使い方・作り方 1, ②RTM の作り方 2, ③RTno の使い方・スケッチの作り方 の説明書に従い、練習を開始してください。